

令和7(2025) 年度 事業報告書

「誠実で信頼される人に」
Become a Sincere and Reliable Person

すべては生徒のために
—生徒が輝く学校づくりを目指して—



学校法人 鈴鹿享栄学園

目 次 C o n t e n t s

はじめに	・・・・・・・・	1
------	----------	---

I. 学校法人の概要

1. 建学の精神	・・・・・・・・	2
2. 鈴鹿享栄学園の沿革	・・・・・・・・	4
3. 役員	・・・・・・・・	6
4. 評議員	・・・・・・・・	6
5. 理事会・評議員会の開催状況	・・・・・・・・	7
6. 経営方針	・・・・・・・・	10
7. 環境整備	・・・・・・・・	10
8. 生徒数	・・・・・・・・	11
9. 教職員数	・・・・・・・・	11

II. 事業の概要

1. 鈴鹿高等学校	・・・・・・・・	12
2. 鈴鹿中等教育学校	・・・・・・・・	18

III. 財務の概要

1. 貸借対照表	・・・・・・・・	25
2. 事業活動収支計算書	・・・・・・・・	26
3. 資金収支計算書	・・・・・・・・	28
4. 有価証券	・・・・・・・・	29
5. 借入金明細書	・・・・・・・・	29
6. 財務比率	・・・・・・・・	30

はじめに

1. はじめに



本学園は、平成26（2014）年、享栄学園から分離し鈴鹿享栄学園として、新しいスタートをきり12年が経過いたしました。法人分離は、各学校の特色や強みをより一層生かし、生徒、保護者、地域のニーズを把握し、さまざまな課題に対して迅速な決断と改革に取り組むとともに将来にわたる安心と明確な責任体制の確立を趣旨として行われ、この12年間でかなりの成果が挙げたと確信しています。

本学園は、少子化が今後さらに進み、就学人口が大幅に減少して行くなど厳しい時代を乗り越え、建学の精神「誠実で信頼される人に」に基づいた社会で生き抜く力を持つ優秀な人材を輩出する学園として発展し、将来にわたって存続しなければなりません。

また、教育を取巻く社会情勢は、大きく変貌してきており、グローバル化の進展、多様化する大学入試制度、高大接続改革等への更なる対応に対しては、即応、先取りした教学システムの構築、提供、さらに組織改革等を行う必要があります。

2. 経営方針

これらの環境認識のもと、令和7（2025）年度に、経営方針について全教職員が参画して「生徒、保護者、地域の満足度向上」、「安定性、持続性、発展性を担保できる経営の展開」、「全員参画型組織の構築」の3点であることを再確認しました。

また、令和7年度から今後の10年間を見据えた中期計画をスタートさせました。この中で、自己肯定感や幸福感など生徒と学校（教職員）一人ひとりのウェルビーイングの向上が大切であるとして、生徒・保護者が満足できる良好な教育内容及び教育施設環境の提供、並びにそれらを実現するための組織づくりを行うこととしています。

3. 令和7年度事業

経営方針に基づき高等学校及び中等教育学校の事業計画として盛り込んだ教学改革、生徒募集・入試に係る事業等を着実に実行しました。

また、教学品質の向上のために高等学校コース制改革の完成及び中等教育学校の確立を受け、引き続き成果と課題の更なる検証に取り組み、両校の更なる魅力化をめざしての研究、時代の変化に即応した指導体制と教育環境の整備、優秀な教職員の確保と教職員研修体系の充実、進路実績の向上、クラブ活動の活性化、経営基盤の安定化、ガバナンスの強化、生徒募集活動の強化、働き方改革に繋がる組織整備と教職員の処遇改善、危機管理体制の強化等を併せて実行しました。

以 上

学校法人 鈴鹿享栄学園

理事長 金子 一也

I. 学校法人の概要

1. 建学の精神

「誠実で信頼される人に」

Become a Sincere and Reliable Person

鈴鹿享栄学園の源流である享栄学園は、創立者の堀榮二が、米国で修得した実社会に役立つ教育の実践を目指し大正2年に「英習字簿記学会」として開塾し、同4(1915)年に、「有陰徳者その後、必享其栄」（陰徳ある者は、必ずその栄を享く）の精神を尊び名付けた享栄学園が認可された。誠実さを基にして生徒は教師を信頼し、教師はまた生徒を信頼することのできる教育の場にして、ここで培った信頼感を社会に広げたいと願った「誠実で信頼される人に」を建学の精神として確立し、次の具体的目標を示し、地域に根ざす学園を目指している。



1. あてになる人物になろう

あてになる人物とは、頼りになる人、信頼できる人、頼もしい人のことである。付和雷同しない思慮の深さと意志の強さをもつ人、和して動じない勇気をもつ人である。お互いに不信をいだかなければならないような社会ほど不幸な社会はない。現代人の危機は、人間がお互いの信頼性を欠いている点にあるのではなかろうか。

2. 働くことの喜びを知ろう

日本人は、本来勤勉な国民である。戦後の荒廃から立ち上がり、今日の経済的繁栄をもたらしたのは日本人の勤勉さの賜である。勤勉な資質の裏付けがあって始めて、豊かさを享受することができ、生活にゆとりを持つことが可能となろう。われわれは自己の仕事を愛し、仕事に忠実であり、仕事に打ち込むことができる人でなければならない。

3. 全力をふるって事にあたる体験をもとう

勉学であれ、スポーツであれ全力を傾けて打ち込むことが望ましい。例えば、スポーツで、炎天下体力の限界ぎりぎりまで、強力な精神力で自己に打ち克つといった体験をすることが非常に貴重である。こうした体験は、本人の自信にもつながり、実社会に出ても大いに役立つことであろう。実社会でスポーツ選手が歓迎される所以もここにある。

4. 感謝の気持ちと畏敬の念をもとう

創立者は、感謝の念の強い人であった。仏教に帰依し、昭和5年(1930年)に享栄寺本

堂を建立したのもこの感謝の念からであった。たえず不平不満を感じる人ほど不幸な人はない。小さな好意や親切にも感謝できる人は幸福である。感謝の念に裏付けられて社会は明るくなり、健全な進歩が期待されるのである。また、われわれは生命の根源に対して畏敬の念をいだくべきである。われわれは自ら自己の生命を生んだのではない。われわれの生命の根源には父母の生命があり、民族の生命があり、人類の生命があり、宇宙の生命がある。ここにいう生命とは、単に肉体的な生命を指すのではない。われわれには精神的な生命がある。このような生命の根源に対する畏敬の念が真の宗教的情操であり、人間の尊厳と愛もこれに基づいて生ずるのである。

5. 正しく日本を愛し、国際的視野を広げる人になろう

創立者は、長らくアメリカに滞在し国際的視野を身につけ、技術的にはアメリカのものを多く導入したが、精神的には強く日本のよさにひかれ、国を愛する念が強かった。今後ますます進展する国際化時代を迎え、国際社会で活躍していくためには、正しく日本を愛し、その上で、国際的視野を広げ、異文化を理解し、人間愛に基づく広い視野をもって、国際社会の要請に応えていかなければならない。今日、世界において、国家に所属しないいいかなる個人もなく、民族もない。国家は世界において最も有機的であり、強力な集団である。個人の幸福も安全も国家によるところが極めて多い。自国の存在に無関心であり、その価値の向上に努めずして、その価値を無視したり、その存在を破壊しようとする者は自国を憎むものである。われわれは日本を正しく愛さなければならない。

有陰徳者必享其栄

[享栄]の由来

本学園に「享栄」の名称がついたのは、大正4(1915)年4月「享栄学校」として認可されたときからです。学園のアメリカ式実務教育に興味を持っていた名古屋市長阪本鈔之助氏(在任明治44(1911)年7月～大正6(1917)年1月)が創立者堀 榮二先生に名付け親を頼まれ「有陰徳者必享其栄」とお書きになったのが、もととなりました。

<名 称> 学校法人鈴鹿享栄学園

<法人設立> 平成26(2014)年4月1日

<設置学校> 鈴鹿高等学校  〒513-0831 三重県鈴鹿市庄野町1260

鈴鹿中等教育学校  〒513-0831 三重県鈴鹿市庄野町1230



鈴鹿高等学校



鈴鹿中等教育学校

2. 鈴鹿享栄学園の沿革（平成26年3月までは、享栄学園の沿革を記載）

大正 2（1913）年	6月	英習字簿記学会として名古屋市中区南呉服町に発足
大正 4（1915）年	4月	坂本市長命名の「享栄学園」認可（KYOEI BUSINESS COLLEGEと称す。）
大正 7（1918）年	10月	実業学校令による乙種認可校となり、享栄貿易学校と校名変更
大正 10（1921）年	12月	甲種商業学校として認可される
大正 14（1925）年	4月	実業学校令による甲種認可校（5年）に昇格、享栄商業学校に校名変更
大正 14（1925）年	9月	名古屋市瑞穂区汐路町の現校舎位置に移転、鶴舞公園前に享栄商業タイピスト学校独立
昭和 19（1944）年	3月	財団法人享栄学園を設立、享栄女子商業学校に校名変更
昭和 23（1948）年	4月	学制改革により享栄商業高等学校、享栄中学校として発足
昭和 26（1951）年	3月	学校法人享栄学園となる
昭和 29（1954）年	4月	享栄幼稚園設立
昭和 37（1962）年	4月	享栄商業高等学校に工業課程を開設
昭和 38（1963）年	4月	鈴鹿高等学校を三重県鈴鹿市に、普通科・商業科開校
昭和 40（1965）年	3月	享栄中学校廃校
昭和 41（1966）年	4月	鈴鹿短期大学を三重県鈴鹿市に開校家政学科
昭和 42（1967）年	10月	享栄商業高等学校、校名を享栄高等学校と変更
昭和 43（1968）年	4月	享栄高等学校に普通科開設
昭和 44（1969）年	2月	鈴鹿短期大学に家政第3部が認可
昭和 45（1970）年	1月	鈴鹿高等学校に定時制設置
昭和 51（1976）年	4月	享栄商業タイピスト学校を享栄タイピスト専門学校に校名を変更し、専門課程・高等課程・一般課程を設置
昭和 54（1979）年	9月	鈴鹿高等学校の定時制廃止
昭和 58（1983）年	4月	享栄高等学校栄徳分校を愛知県長久手町に普通科開校
昭和 59（1984）年	2月	鈴鹿短期大学に商経学科が認可
昭和 60（1985）年	4月	享栄高等学校栄徳分校が独立、栄徳高等学校として普通科を開校
昭和 60（1985）年	4月	享栄タイピスト専門学校を専門学校享栄ビジネスカレッジと校名変更
昭和 61（1986）年	4月	鈴鹿中学校を三重県鈴鹿市に開校
平成 元（1989）年	3月	鈴鹿短期大学、家政学科第3部廃止
平成 2（1990）年	3月	専門学校享栄ビジネスカレッジ商業実務一般課程廃止
平成 3（1991）年	4月	鈴鹿短期大学家政学科の名称を生活学科に変更
平成 5（1993）年	12月	鈴鹿国際大学国際学部国際関係学科設置認可
平成 8（1996）年	5月	鈴鹿短期大学商経学科廃止認可
平成 9（1997）年	12月	鈴鹿国際大学大学院国際学研究科及び国際学部国際文化学科認可
平成 10（1998）年	4月	鈴鹿短期大学、校名を鈴鹿国際大学短期大学部と変更認可
平成 12（2000）年	10月	鈴鹿国際大学国際学部観光学科設置認可

平成 13（2001）年	8月	鈴鹿国際大学国際学部英米語学科設置認可
平成 16（2004）年	4月	鈴鹿国際大学国際学部国際関係学科の名称を国際学科に変更
平成 17（2005）年	3月	享栄高等学校通信制課程廃止認可
平成 17（2005）年	3月	専門学校享栄ビジネスカレッジ商業実務高等課程廃止認可
平成 18（2006）年	4月	鈴鹿国際大学短期大学部、校名を鈴鹿短期大学と変更
平成 20（2008）年	4月	鈴鹿国際大学国際学部の名称を国際人間科学部に変更
平成 22（2010）年	3月	専門学校享栄ビジネスカレッジ廃校
平成 22（2010）年	11月	鈴鹿高等学校全日制課程商業科廃止認可
平成 23（2011）年	2月	鈴鹿短期大学専攻科設置認可
平成 23（2011）年	4月	鈴鹿短期大学生活学科の名称を生活コミュニケーション学科に変更
平成 24（2012）年	4月	鈴鹿短期大学が鈴鹿国際大学郡山キャンパスへ移転
平成 25（2013）年	11月	学校法人享栄学園 創立100周年 鈴鹿高等学校創立50周年
平成 26（2014）年	3月	3法人（享栄学園、愛知享栄学園、鈴鹿享栄学園）に分離認可
平成 26（2014）年	4月	法人分離により、学校法人享栄学園、学校法人愛知享栄学園、学校法人 鈴鹿享栄学園発足
平成 28（2016）年	11月	鈴鹿中学校創立30周年
平成 28（2016）年	12月	鈴鹿享栄学園武道場完成
平成 29（2017）年	3月	鈴鹿中等教育学校設置認可
平成 29（2017）年	3月	鈴鹿享栄学園情報メディア教育センター完成
平成 29（2017）年	4月	鈴鹿中等教育学校開設
平成 31（2019）年	3月	鈴鹿中学校廃止認可
令和 3（2021）年	11月	鈴鹿中等教育学校（旧鈴鹿中学校）創立35周年
令和 5（2023）年	11月	鈴鹿高等学校創立60周年

以 上

3. 役員（令和8（2026）年3月31日現在）

定数 理事5人～7人

現員 理事 6人

	氏 名	現 職 等
理 事 長	渡 辺 久 孝	鈴鹿中等教育学校長
理 事	金 子 一 也	事務局長
理 事	堀 昌 弘	鈴鹿高等学校長
理 事	兼 子 勝	学外理事
理 事	真 弓 清 司	学外理事
理 事	箕 輪 田 晃	学外理事

定数 監事2人

現員 監事2人

	氏 名
監 事	藤 原 伸 雄
監 事	堤 達 彦

4. 評議員（令和8（2026）年3月31日現在）

定数 6～11人

現員 8人

	氏 名	氏 名	氏 名
評 議 員	小 松 貞 則	笠 原 清 孝	鈴 木 壽 一
	豊 田 恵 理	篠 原 章 矩	伊 藤 資 子
	木 立 美 千 代	川 又 俊 則	

5. 理事会・評議員会の開催状況

寄附行為に基づき理事会、評議員会を開催しました。

令和7年度に行われた開催日と議案等は以下のとおりです。

	日程	議案等
理 事 会	令和7年4月24日	理事選任機関運営規程の制定について 理事選任規程の廃止について 監事選任規程の一部改定について 評議員選任規程の一部改定について 理事会運営規程の制定について 理事会会議規則の廃止について 理事候補者の選定について 3号評議員の選任について 1号評議員及び2号評議員候補者の選定について 監事候補者の選定について 第1回評議員会の招集について 第2回評議員会（定時評議員会）の招集について
	令和7年5月29日	理事の選任について 令和6（2024）年度事業報告書（案）及び決算書（案）について 学校法人鈴鹿享栄学園専任職員就業規則の一部改定について 学校法人鈴鹿享栄学園常勤職員就業規則の一部改定について 学校法人鈴鹿享栄学非常勤職員就業規則の一部改定について 学校法人鈴鹿享栄学無期常勤勤職員就業規則の一部改定について 学校法人鈴鹿享栄学無期非常勤勤職員就業規則の一部改定について
	令和7年5月29日	理事長の選任について 常務理事の選任について 理事長の職務代行者の順位について 理事の担当業務について
	令和7年6月19日	令和7（2025）年度第一回補正予算（案）について 第3回評議員会付議事項について 学校法人鈴鹿享栄学園理事会運営規程の一部改定について 学校法人鈴鹿享栄学園常任理事会運営規程の一部改定について 学校法人鈴鹿享栄学園専任職員給与規程の一部改定について（令和7年10月1日施行） 学校法人鈴鹿享栄学園常勤職員給与規程の一部改定について（令和7年10月1日施行）
	令和7年6月26日	令和7（2025）年度第一回補正予算（案）について

	日程	議案等
理 事 会	令和 7 年 9 月 25 日	令和 8（2026）年度予算編成方針（案）について 学校法人鈴鹿享栄学園理事会業務委任規則の一部改定について 学校法人鈴鹿享栄学園監事監査規程の一部改定について 学校法人鈴鹿享栄学園専任職員給与規程の一部改定について 学校法人鈴鹿享栄学園常勤職員給与規程の一部改定について 学校法人鈴鹿享栄学園非常勤職員給与規程の一部改定について 学校法人鈴鹿享栄学園専任職員就業規則の一部改定について 学校法人鈴鹿享栄学園常勤職員就業規則の一部改定について 学校法人鈴鹿享栄学園無期常勤職員就業規則の一部改定について
	令和 7 年 12 月 18 日	令和 7（2025）年度第二回補正予算（案）について 第 4 回評議員会付議事項について
	令和 7 年 12 月 25 日	令和 7（2025）年度第二回補正予算（案）について
	令和 8 年 2 月 26 日	令和 7（2025）年度第三回補正予算（案）について 学校法人鈴鹿享栄学園役員報酬規程の一部改定について 学校法人鈴鹿享栄学園評議員報酬規程の一部改定について 学校法人鈴鹿享栄学園役員退任慰労金規程の一部改定について 学校法人鈴鹿享栄学園鈴鹿中等教育学校学則の一部改定について 各所属長の選任について（令和 8 年 4 月 1 日付） 理事選任区分の変更について（令和 8 年 4 月 1 日付） 理事候補者の選任について（令和 8 年 4 月 1 日付） 評議員候補者の選任について（令和 8 年 4 月 1 日付） 学校法人鈴鹿享栄学園令和 7 年度第 5 回評議員会付議事項について
	令和 8 年 3 月 19 日	令和 7（2025）年度第三回補正予算（案）について 学校法人鈴鹿享栄学園役員報酬規程の一部改定について 学校法人鈴鹿享栄学園役員退任慰労金の一部改定について 理事選任区分の変更について（令和 8 年 4 月 1 日付） 理事の選任について（令和 8 年 4 月 1 日付） 理事長の選定について 理事長の職務代行者の順位について 理事の担当業務について 令和 8（2026）年度事業計画書（案）及び当初予算（案）について 学校法人鈴鹿享栄学園専任職員就業規則の一部改定について 学校法人鈴鹿享栄学園常勤職員就業規則の一部改定について 学校法人鈴鹿享栄学園無期常勤職員就業規則の一部改定について 学校法人鈴鹿享栄学園令和 7 年度第 6 回評議員会付議事項について
	令和 8 年 3 月 26 日	令和 8（2026）年度事業計画書（案）及び当初予算（案）について

	日程	議案等
評 議 員 会	令和7年5月15日	理事候補者に対する意見徴収について 第1号評議員の選任について 第2号評議員の選任について 監事の選任について
	令和7年5月29日	令和6（2024）年度事業報告書及び決算書について
	令和7年6月26日	令和7（2025）年度第一回補正予算（案）について
	令和7年12月25日	令和7（2025）年度第二回補正予算（案）について
	令和8年3月12日	令和7（2025）年度第三回補正予算（案）に対する意見聴取について 学校法人鈴鹿享栄学園役員報酬規程の一部改定に対する意見聴取について 学校法人鈴鹿享栄学園役員退任慰労金の一部改定に対する意見聴取について 理事選任区分の変更に対する意見聴取について（令和8年4月1日付） 理事候補者の選任に対する意見聴取について（令和8年4月1日付） 評議員の選任について（令和8年4月1日付）
	令和8年3月26日	令和8（2026）年度事業計画書（案）及び当初予算（案）について

6. 経営方針

1. 生徒、保護者、地域の満足度向上

(1) 教学品質の向上・体制の改善

- ①高等学校コース制の完成、中等教育学校の確立を受け、引き続き成果と課題の更なる検証
- ②時代の変化に即応した指導体制と教育環境の整備
- ③優秀な教職員の確保と教職員研修体系の充実

(2) 進路実績の向上

(3) クラブ活動の活性化

2. 安定性、持続性、発展性を担保できる経営の展開

(1) 経営基盤の安定化・・・財務体質の強化

(2) ガバナンスの強化

(3) 生徒活動募集の強化

(4) 働き方改革に繋がる組織整備と教職員の処遇改善

(5) 安全安心な学校づくり・ハラスメント対策など危機管理体制の強化

3. 全員参画型組織の構築

(1) 高い目標への挑戦

(2) 全員が参画し、全員で方策を決め、全員で実行する組織づくり

(3) P D C A サイクルを活用した継続的改善

7. 環境整備

事業の必要性、緊急性、安全性に基づき実施事業を絞り込み、次の事業を行った。

- | | |
|--------------------------------------|-----------|
| (1) 40周年記念館外壁補修工事
老朽化による工事 | 17,369 千円 |
| (2) 機械警備の導入
校舎・職員室センサー等を設置 | 10,897 千円 |
| (3) 5号館トイレ改修工事
和式から洋式に変更 | 7,865 千円 |
| (4) 生徒用パソコン端末機器整備
E M C 生徒用端末機の更新 | 5,087 千円 |
| (5) 学内サーバー・ネットワーク機器整備
アクセスポイント増設 | 1,775 千円 |
| (6) 面談スペース設置
中等教育学校に面談スペースを設置 | 1,999 千円 |

8. 生徒数 （5月1日現在）

鈴鹿高等学校

（単位 人）

学年	令和7年度					令和6年度					増減				
コース	総合	探究	特進	他	計	総合	探究	特進	他	計	総合	探究	特進	他	計
1 学年	229	92	25	1	347	248	70	36	0	354	△ 19	22	△ 11	1	△ 7
2 学年	233	64	36	0	333	219	54	36	1	310	14	10	0	△ 1	23
3 学年	215	51	34	0	300	196	55	46	0	297	19	△ 4	△ 12	0	3
合 計	677	207	95	1	980	663	179	118	1	961	14	28	△ 23	0	19

※「他」は入学と同時に留学のためコースに属さず

鈴鹿中等教育学校

（単位 人）

学年	令和7年度			令和6年度			増減		
コース	特進	医進	計	特進	医進	計	特進	医進	計
1 学年	52	53	105	58	56	114	△ 6	△ 3	△ 9
2 学年	56	58	114	67	67	134	△ 11	△ 9	△ 20
3 学年	59	72	131	42	74	116	17	△ 2	15
4 学年	32	77	109	58	88	146	△ 26	△ 11	△ 37
5 学年	53	85	138	39	81	120	14	4	18
6 学年	37	81	118	60	46	106	△ 23	35	12
合 計	289	426	715	324	412	736	△ 35	14	△ 21

9. 教職員数 （令和7（2025）年5月1日現在）

（単位 人）

部門	教員		職員		専任・常勤計	非常勤計	合計
	専任・常勤	非常勤	専任・常勤	非常勤			
鈴鹿高等学校	60	26	8	11	68	37	105
鈴鹿中等教育学校	51	24	3	6	54	30	84
合 計	111	50	11	17	122	67	189

II. 事業の概要

1. 鈴鹿高等学校

1. 教学改革

(1) 教育充実のための取り組み

令和7年度は、令和2年度よりスタートした3つのコース改革（特進・探究・総合）の6年目となり、各コース体制の検証を行い、先々を見越した軌道修正・改善を加えながら、各コースの完成度を高めてきた。これを繰り返すこと（PDCA）が生徒自ら考え、変化が激しい社会を生き抜く力を養成（グラデュエーション・ポリシー：育成を目指す資質・能力に関する方針）し、生徒・保護者・地域の満足度向上を目指した。

(2) 各コースの方針（カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成及び実施に関する方針）

① 特進コース

3年生：コース目標として定めた「自分が決めた進路目標に対して最後まで向き合い、諦めず取り組む」については、3年になってもクラブを辞めることもなく、中には秋まで打ち込む生徒もいた。学校生活をクラブによって充実させていた生徒も多くいた。生活アンケートでは「よい」以上の回答率が90%以上を達成できた。また、進路目標である「国公立大学合格」については、日々の授業はもちろん、放課後の質問対応面談や模試の過去問等から対策を立てて取り組んだ結果、国公立大学推薦入試・総合型選抜入試に4名合格、一般入試で9名合格、計13名の合格となった。また、私立大学にも併願型の総合型選抜入試で合格する等成果をあげることができた。

2年生：生活面では、半数以上の生徒が「週25時間以上の学習時間を確保する」という目標を達成し、生徒一人ひとりが自らの生活を見つめ、主体的に学習に取り組む姿勢を育てることができた。学習面では、大学入学共通テスト模試等において設定したGTZ（学習到達ゾーン）を概ね達成し、Sゾーン・Aゾーンの生徒数を着実に増やすことができた。検定においては、実用英語技能検定2級に10名合格という素晴らしい結果であった。

1年生：誠実で責任感が強く規律意識が非常に高い生徒が多く、行事や役割分担など最後まで全うすることができた。学習面においては、きめ細やかなコーチングを実施し、自ら考え実行させるスタイルを徹底した。その結果、自分自身の弱点を見極めて主体的に取り組む姿勢が定着し、県内の進学校にも引けを取らない結果を残すことができた。

② 探究コース

3年生：進路実現として、総合型選抜入試受験者17名、学校推薦型選抜入試受験者17名、推薦入試受験者17名、一般入試受験者11名で8割強の生徒が年内入試で合格した。特徴として総合型選抜入試受験者が3割を超えたことであり、17名が受験して15名が第一志望大学に合格（1名慶応大学・総合政策学部合格）することがで

た。学校推薦型選抜入試では17名中13名が合格（1名三重県立看護大学合格）した。探究活動として、「地域企業と連携した探究」「起業家講演会」「うみがめネットワーク講演会」「皇学館大学・伊勢福へのフィールドワーク」「企業プロジェクト型探究」「避難所体験」「鈴鹿市商工会議所とのB級グルメ考案」等様々な体験を大学入試に活かすことができた。

2年生：1年を通して「探究活動を通して生徒を育てる」を目標として取り組んだ。1年生で学んだ探究活動の基本を発展させ、個人で探究して将来の進学に繋げた。2月には保護者も見学できる発表会を行った。学習面では、修学旅行以降授業に真剣に取り組む、模試においては平均偏差値を上げることができた。生活面では、コミュニケーションに苦勞する生徒も在籍しており、友人間での小さなトラブルがあったが、学習に向かう姿勢が強くなった年度末にはトラブルも少なくなった。

1年生：入学当初から「探究活動ガイダンス」を行い、卒業生による講演やPCの基本操作を学習したことから、「地域企業が抱える課題・プロジェクトからの活動」ではスムーズに進み、5月末に企業の方の前で発表することができた。6月から「ビジネスグランプリ」へのエントリーへ向けて取り組み、11月にはインターンシップに参加して自己のキャリア形成のきっかけを発見した。12月には個々の興味関心から問いをたて、実行に移すまでの計画を立てた。中間発表を2月に行い、2年生で発表予定である。行事の節目には自身の非認知能力を数値化して把握した弱みを数値で理解することで、次の目標を立てて実行する生徒もいた。生活面では、コミュニケーションがうまく取れずに、友人間の小さなトラブルがあったが、担任やスクールカウンセラーが細目に対応した結果、落ち着いた学校生活を送れるようになった。

③ 総合コース

3年生：学校行事や授業・総合的な探究の時間では主体的かつ積極的に参加する生徒が多く見られた。クラブ活動では、県大会を勝ち抜き、全国・東海大会へ進み、活躍する生徒が増えてきたので、クラブで学校を盛り上げようとする意欲が高まっている。進路実現については、総合的な探究の時間を利用し、分野別進路学習を希望分野に沿って行うことができた。また、「志望理由書の組み立て方プログラム」を活用し、自己分析を行い、志望理由書完成に役立てた。進学希望者の多くが指定校推薦入試・総合選抜型入試・学校推薦型入試で受験して第一希望校に合格できた。就職希望者は文系選択の「数学Ⅰ」でSPIの試験対策を行い、面接練習も自ら計画を立てて取り組んだ結果、全員内定を得ることができた。幼児教育クラスでは、実習中の子どもとの交流から、自分の授業姿勢や取り組み方を見直すことができて現実味のある進路指導に繋がった。看護医療クラスでは、医療従事者の経験談や医療体験実習から将来医療関係に従事する自覚が芽生え、視野の広い生徒育成に繋がった。

2年生：学校行事や授業・総合的な探究の時間では主体的かつ積極的に参加する生徒が多く見受けられた。修学旅行や行事でお互いが思いやる行動・譲り合う姿も見られ、集団としての落ち着きが見られるようになった。クラブ活動では全国・東海で活躍する生徒が増え、クラブ活動に関する意欲が高まり、元気に挨拶する姿が増えてきた。進路指導においては、分野別進路学習から自分の希望分野に沿って行うことができ、自らの課題にも取り組むようになった。3学期に2日間のインターンシップを行い、仕事と向き合う貴重な経験となった。進路学習では、来年の進路実現に向けて、「志望理由書の組み立て方」に対する取り組みを始めた。

1年生：1年生ということもあり、コミュニケーションがうまく取れずに友人関係のトラブルや悩み事・生活指導上の問題（生徒間トラブル・怠け等）が多かった。その都度面談を行い、スクールカウンセラーや保護者の協力を得ながら成長を見守った結果年度末には落ち着いてきた。学習面では、週1回の漢字テストを実施して11月の漢字検定に繋がったが合格率は低かった。進路指導では、「分野別進路学習」を実施して大学・専門学校・企業の方から入試情報・仕事内容等の説明を受けて進路決定に刺激を受けた。また、OB・OGを招いて職業観と学生時代の取り組み等の話から進路に関するイメージが膨らみ、次年度の文理選択に活かすことができた。

(3) 研修体制の確立

① 初任者研修

令和7年度初任者研修受講者 高校：2名 中等：3名

令和7年度2年目研修受講者 高校：4名 中等：3名

② 中堅研修

令和6年度中堅研修受講者 高校：1名 中等：1名

③ ICT教育研修の推進

各教科で授業の研修を行い、各教科工夫を凝らした授業展開ができた。

④ 先進校への視察

学校法人 利晶学園 初芝橋本高等学校・・・高大連携、教育指導、ICT教育推進校

⑤ 多様な受験形態に対応するための小論文・面接指導を向上させるための研修の実施

キャリアアドバイザー（鈴木先生）から小論文指導・志望理由書等の指導を受け、外部開催の小論文講座等の研修にも参加した。

2. 生徒募集・入試に係る事業

本学の教育方針をよく理解し、本学で学びたいという意欲が高い生徒を受け入れるために、あらゆる情報を多様な募集・広報活動で発信し、入学者の確保を図った。

① 入学者確保のための分析・戦略、及び推薦入試の募集活動強化

志願者数 3,290名（昨年度3,469名 ▲179名）

入学者数 325名（昨年度 346名 ▲21名）

専願者数 269名（昨年度 223名 +46名）

② 広報活動の活性化（デジタルコンテンツを一層充実させる）

Web出願6年目で大きなトラブルもなく、昨年よりもスムーズであった。

③ 魅力ある広報イベントの企画

学校訪問：125中学校全てにパンフレット・鈴高通信等が配布できた。

塾訪問・資料発送：15塾訪問・320塾に資料発送して鈴鹿高校の魅力を発信できた。また、eisuの主要教室・明光塾20教室・塾協会等を訪問し、鈴鹿の本気度を示すことができた。

施設見学会：3回開催「鈴鹿の強味」「私学と公立の違い」が好評であった。

参加者 生徒298名 保護者178名 計476名（昨年度489名 ▲13名）

塾説明会：2回開催（9/9、9/10）参加者90名（昨年度100名 ▲10名）中等と同日開催

学校説明会：7回（2部制）定員80名設定で開催。

参加者 生徒930名、保護者764名 計1694名（昨年度886名 +815名）

進路説明会：中学校（26校）合同説明会（5会場）塾（2塾）私学展等で説明。

ZOOM説明会：10回開催。参加者61名（昨年度260名 ▲199名）

クラブ見学会・相談会（3年前まではクラブ相談会）：53名・保護者46名 計99名参加
イブニング説明会：初めての試みとして3回開催した。参加者は11名であった。

特進コース説明会：11月23日開催 参加者28名（昨年度54名 ▲27名）

運営は生徒・OB・OG中心で実施した。生徒によるプレゼン・保護者向けの説明や特進クイズ・座談会など内容も充実していた。在校生と直接話ができることから、アンケート評価も上々であった。

④ 中学校・塾との連携強化（学校訪問・塾訪問強化）

中学校訪問は入試対策部を中心に行い、塾訪問の強化を最優先として掲げ、精力的に訪問できた。

⑤ 地域への啓発活動（学校通信等の発行）

県内殆どの中学校にパンフレット・鈴高通信を配布することができた。

⑥ 奨学生制度の宣伝

中学校訪問・塾訪問・説明会・広報イベントで、奨学金・就学支援金の説明をした。

⑦ ホームページ・インスタグラム・ショート動画のツールで鈴鹿高校の魅力を発信

行事ごとにホームページ・インスタグラムの更新を行い、鈴鹿高校の魅力を発信することができた。

3. 生徒支援事業

(1) 支援事業の充実

多様な表現活動と学習意欲を高めるカリキュラムの充実を図り、知識・技能の習得を基に、思考力・判断力・表現力を育成するための工夫を全教員・全教科に取り入れた。

① 基礎学力の徹底習得と多様な表現活動の充実

朝の漢字・数学・英語等の取り組みを継続して行った。

夏期講座・冬期講座・プロジェクト10・特進学習合宿を開催できた。

② 高大接続の拡大

鈴鹿大学（幼児教育）、皇學館大学（探究活動）、鈴鹿医療科学大学（看護医療系）と
高大連携による事業を行うことができた。

③ 教育相談体制の整備

担任や学年団がカウンセラーと情報共有をスムーズに行い、対応を考えるためのいじめ
防止対策委員会（ケース会議）を機を逃すことなく行った。

(2) ICT環境の整備および生徒用端末機器の利用推進

今年度で全員が学習端末を購入したので、各教科工夫を凝らした授業が展開できた。

(3) 教育のPDCAサイクルによる成果の可視化

授業アンケート（11月）・保護者アンケート（7月、12月）、学力分析によるPDCAで
改善を目指した。また、教育目標の具体化・数値化を図り、より客観的な評価ができるよう
にした。

① 授業アンケート・保護者アンケートの実施

授業アンケートは、11月に全教員が行い、各自の指導改善に繋がっているか、また生徒の
学習改善に繋がっているか確認をした。

保護者アンケートは、7月・12月の保護者懇談会で実施した。学校の教育活動や学校運営の
状況について保護者の満足度が90%を上回ることを目標としている。

＜令和7年度保護者アンケート結果＞

満足度 7月：そう思う48.2%、ややそう思う43.4% 計91.6%（昨年：95.0%）

満足度 12月：そう思う53.8%、ややそう思う37.4% 計91.2%（昨年：94.5%）

② 学力分析

特進コースでは、「模試分析会」を進路指導部と協働で開催し、学年コースと教科担当者
との共通理解を深める取り組みをしている。今後、生徒の学力を伸ばし、進学実績を上げて
いくための取り組みとして、次年度も継続して実施する予定である。

③ 外部研修会による授業力量向上

外部で開催される指導力向上セミナー等に参加し各教科で研修を実施した。

(4) 国際交流の充実

国際的な視野を広げるために、英語の授業で他国の文化に焦点を当て、日本の文化と比較
しながら、異文化理解を深める機会を増やし、毎週ネイティブスピーカーによる授業を全学
年で行った。短期留学（2週間・5か月・10ヶ月）に6名が参加した。（1名留学中）

＜令和7年度 留学実績＞

・夏季休業中2週間の留学（セブ島） 1名

・夏季休業中2週間の留学（オーストラリア） 3名

・令和7年1月～5か月の留学（カナダ・トロント） 1名

・令和8年1月～6か月の留学（カナダ・トロント） 1名

＜令和7年度 2年特進コース研修旅行実績＞

・11月10日～14日（福島県・ブリティッシュヒルズ） 36名

4. 進路支援事業

確かな学力を定着させて進路選択を広げ、一人ひとりの進路希望を的確に把握した進路指導
を推進した。

① 国公立大学合格 18名（特進 13名・探究 3名・既卒生2名）

昨年度 15名（特進 13名・探究 2名・既卒生0名）

② 私立大学合格

四年制大学合格者 54校 192名 昨年度 61校 225名

短期大学合格者 5校 8名 昨年度 5校 11名

専門学校合格者 44校 77名 昨年度 30校 63名

③ 就職内定者 53名（学校斡旋48名 自営2名 公務員3名）昨年度 46名

5. 地域連携・地域貢献事業

地域の清掃活動に参加し、地域との共生を図った。また、生徒会をはじめ、各クラブが施設訪問やボランティア活動を積極的に行った。

① 地元地域清掃活動、地元小学校・中学校への行事参加、及び出前授業参加

- ・ 庄野地区清掃活動（5/27）高校15名、中等39名、保護者10名、教員7名 計71名参加
- ・ 庄野地区清掃活動（9/21）高校19名、中等19名、保護者13名、教員6名 計57名参加
- ・ 庄野公民館主催夏休み講座に美術部が参加、音楽祭に放送部が参加
- ・ 平田地区さくらまつり（4/4、4/5）26名・ボランティア部が参加
- ・ 平田野中、創徳中、大木中、千代崎中の高校体験授業（出前授業）に参加

② 施設訪問及びボランティア活動の活性化

- ・ ボランティア部によるペットボトルキャップ回収活動
- ・ 生徒会、ボランティア部による能登半島地震支援募金活動

6. 教職員の働き方改革

(1) 統合型校務支援システムの導入による業務効率化とシステムのさらなる改善

統合型支援システムの本格導入に伴い、ワークフローによる業務改善と各種資料のペーパーレス化も進んだことで、迅速な情報共有につながっている。今後も、働き方改革に伴う制度設計とワークフローの連動、職員の業務と事務手続き間の連動とその効率化を継続して検討していく必要がある。

(2) 教職員業務のスクラップ＆ビルドの意識の醸成と実行

教職員個人の意識の醸成とその実行は一定の成果を得ている。しかし、組織的に、あるいは制度設計の中でスクラップを推進するには至っていない。次年度以降も、組織的にスクラップを推進できるようにしていく必要がある。

注）・SPI・・・多くの企業の採用選考で利用されている適性検査

2. 鈴鹿中等教育学校

1. 教学改革

(1) 中等教育学校としての中期計画の策定と計画の実行

令和7年度開始までに中期計画の策定は完了し、本校の課題であった、様々な取り組みを効果的に発信することを意識して計画を実行した。

(2) スクール・ミッションの前提となるスクール・ポリシーに沿った取組の推進

- 1) グラデュエーション・ポリシー
- 2) カリキュラム・ポリシー
- 3) アドミッション・ポリシー

協働して諸課題の解決に取り組み、よりよい社会づくりに貢献できる人の育成

昨年度策定したスクールポリシーに沿った、各学年、各分掌の取り組み実践を行うことができた。具体的には、カリキュラムの改訂、入学試験の新制度導入などが挙げられる。

(3) 中等教育学校としての成果と課題の整理、改革方針の適宜見直し

中等教育学校としての成果と改善点を共有し、課題をまとめることで、継承すべき取り組みを精査した。次年度の改革方針につなげることができた。

(4) 学校力向上を目指した研修体制の確立

① 生徒が主体的に学び、習慣的に家庭学習に取り組もうとする意欲の醸成を図る指導力の向上

学年・教科を中心に取り組み、ICTも活用し課題の進捗を確認するなど、生徒一人ひとりに応じた指導を行った。

② 互見授業の促進と充実した授業研究活動の定例化

精力的に授業見学と授業中の生徒の様子について情報交換を行った。定期的な授業研究は、教科主導で行った。今後は、教務部主体での授業研究も実施していく予定である。

③ 教科会議の充実 → 指導と評価の一体化による授業改善と教科指導力の向上

→ 知識・技能、思考力・判断力・表現力、学びに向かう力のバランスのとれた育成

各部署や学年とも連携し、課題や内容を精査しながら教科会議を行った。各教員の教科指導力向上を中心に、教材の精査なども含め、生徒一人ひとりの学びの向上を主眼におき実施した。

④ BYAD(Bring Your Assigned Device)を導入したICT教育の推進のための情報収集、研究

学年・教科を中心に活用を推進している。授業だけではなく、課題の進捗状況の確認や、探究活動での活用も充実してきている。

⑤ 初任者研修の充実 系統的な初任者(1・2年目)研修を継続し、教員としての資質を向上

研修監のもと、今年度21回の初任者研修を行うことができた。各研修毎に受講した先生方の学びを全教員と共有できている。研修合宿も実施し、資質向上を図ることができた。

⑥ 中堅研修 本校経験10～15年の教員による研究授業の実施

今年度は数学科教員の中堅研修を実施した、鈴鹿高校とも共同で行い、事後の研修、教科会議での研修も含む充実したものとなった。

⑦ ブラッシュアップ研修 外部指導者による集中指導(年10回 本年度数学)

校内での活用・実践を校内研修で共有することができた。授業だけではなく、日常の教育活動における活用も含めてより生徒の学びにつながるよう推進していく。

⑧ 先進校への計画的視察の推進

AI活用に関わる研修にて先進校の取り組みを学ぶことができた、校内研修会等を通じてさらなる活用方法について認識を深めていく。

⑨ 小論文・面接指導力向上など進路指導に係る研修の充実

医学部予備校の研修会に参加し外部から情報を得るとともに、内部でも経験ある指導者の指導現場に他教員が参加することでOJTの形での研修を行うことができた。

⑩ キャリア教育体系におけるベストプラクティスの更新と実践

学年主導で開始した企業訪問を進路指導部主導で行うことで体系的・継続的に実施できるようにした。今後も、様々な取り組みが形骸化しないように実施形態を都度検討していく予定。

⑪ 学年主任会等における優れた取組業績の確認・継承機会の設定

特に6学年における入学時からの取り組みと、模擬試験等の結果を連動させて議論することで各学年における効果的な教科指導、学年指導について議論することができた。

⑫ 期首・期末面談での教員個々のニーズに応じた研修の確認と機会の提供

すべての教職員と期首面談、期末面談を実施し、個々の課題に応じた研修機会を紹介することができた。また、研修履歴や個々の強みを活かしたOJTにつながるアドバイスにつなげることができた。

(5) グローバル教育の推進

① 国際交流の充実

姉妹校生徒間のオンライン交流、外国の方の講演会や交換留学による国際理解教育

今年度は、オーストラリア姉妹校から留学生を受け入れ、本校生徒宅によるホームステイの機会を得た。在校生との対面形式での交流会も充実したものとなったが、毎年の受け入れではないため、より継続した交流となるようオンライン交流会を計画している。

② 充実した海外研修旅行の実施と海外留学、帰国生・留学生等の受け入れ推進

シンガポール・マレーシア研修(3年次)

希望者制海外研修[オーストラリア姉妹校・カナダ・セブ島集中英語研修]等(4年次)

3年生全員参加のシンガポール語学研修を実施した。その中で、マレーシアの姉妹校との生徒間交流も継続して実施できた。また、4年生の希望者向けにオーストラリア姉妹校研修、セブ島集中英語研修、カナダ提携校研修も実施することができた。今年度は特に、セブ島集中語学研修において、セブ大学との連携協定を締結し、附属校生徒と文化交流を行うことができた。

(6) 総合的な学習の時間／総合的な探究の時間の充実

「総合的な学習の時間」(前期課程)から「総合的な探究の時間」(後期課程)へ6年制の特徴を生かした全教員による指導体制の継続及び取組向上に向けた外部専門家の導入

これまでのTheme Studyの成果と課題の整理による今後の改善方向の検討(含発信方法)

本校の総合的な学習・探究の時間の指導計画を基に、各学年に応じた実践を行うことができた。TSにおける全教員が関わった指導も継続的に行っている。内容や、指導方法については今後さらなるブラッシュアップが必要であり、研究していく。

2. 生徒募集・入試に係る事業

(1) 受験者数増及び専願率の向上を目指した取組の成果と課題の分析

入試広報戦略会議と連携し、広報活動を詳細分析、戦略を持って学校説明会や情報発信を行った。募集イベントの、様々な改革を行ったことで、全ての募集イベントで前年比参加者増となり、志願者数は昨年度比で13%増となったことに加え、低学年児童の来校機会につながった。

入学定員を満たさなかった主な理由となった、特進コースの志望者と専願者を増やすことが今後の課題としてあげられる。

(2) 入試広報活動に係る戦略会議の発足及び分析に基づく戦略の実行

① 塾(とりわけ小規模塾)との連携強化と、塾のみに頼らない生徒募集活動の研究と実践

個人塾や英会話スクールなどにも細かな渉外活動を行った。塾説明会、英語授業公開・シンポジウムの案内も併せて行うことで、実際に来校いただく機会の増加につなげた。特に英語公開授業・シンポジウムは、参加者(英会話スクール、インタースクールの先生方等)から好評を得たため、次年度の募集先拡大につながる可能性を得た。

また保護者ネットワークの力も借り、チラシやポスターの配布など広報面での協力を得た。

② SNSの重点的活用など、あらゆる情報発信技術・機会の駆使

学校行事、部活動報告、授業の様子のほか、何気ない校内の日常の様子も含め、2日に1度以上の更新を行い学校情報を発信した。学校説明会PRやWEB出願開始、大学入試合格速報など、時期に応じて適宜入試・広報情報を発信した。特にInstagramによる写真投稿を積極的に行った。

(3) 医進・選抜コース、特進コースそれぞれの魅力化・特色化を図る研究・議論・校内研修会の実施

広報イベントにおいて、生徒発信による学校紹介、コース紹介を実施し、好評を得た。

5学年の取り組みとして、チーム特進による学校紹介新聞作成など、主体的な生徒の取り組みによって生徒自身が学校の魅力を再発見し、外部へと発信する取り組みを行った。

各コースにおける特色化を図る研究と効果的な発信方法については、令和8年度に立ち上げる新プロジェクトにより継続して議論し、校内研修などで共有していくこととなっている。

(4) 入学試験の在り方に係る研究

① 多様な資質、能力を持った生徒(児童)の積極的な受け入れのための取組

英検、スポーツ、個人的な活動等の評価

様々な力、経験のある児童に受験機会を提供するため、AO入試において、英検以外の活動実績を入試加点対象とする入試制度を新規策定した。

② 受験生目線で見た適切な入学試験問題作成のための研究

受験生の解答の傾向等に加え、昨年策定したアドミッションポリシーを鑑みて作問に反映した。

各教科において、受験生が学習の成果を発揮しやすい作問の研究を行った。まだ改善の余地があるため、次年度も改善を加えていく。

(5) 説明会等イベントの充実

① あそびとまなびの体験ラリーの実施

体験講座を8講座増加し、内容も強化したことで、参加者数319名で前年比77名増となった。

② 公開授業、教育シンポジウム等の開催による広報活動

英語塾や児童へのアピールとしての英語教育の取組公開

確実な成果を上げている数学教育の取組公開

科学部等による小学生向けのイベントの検討

理科と英語科の協働によるサイエンス・イマージョンに係る研究と試行

「英語公開授業・シンポジウム」を実施し、本校の英語教育の強みをアピールできた。

科学部による小学生向けイベントは、小学校への出前授業に加え、学童教室、地域の科学実験教室に至るまで、毎年、地道に活動の幅を広げている。

数学教育の取り組み公開とイマージョンに係る研究は、今年度の英語シンポジウム開催の実績をもとに次年度開催を検討することとなった。

(6) 中等教育学校の魅力を発信する広報活動

① ホームページ、SNSを積極的に活用して生徒の学校生活を広く発信

② 中等教育学校ならではの行事等についてメディアへ積極的に情報提供

英語スピーチコンテスト、英字新聞、SGSS、GIS、弁論大会、鈴青祭、TS、ときめきサポート報告会等

HPのトピックス更新（年間146回、昨年比10%増）に加え、特にInstagram更新に尽力した。Instagramについては、閲覧数2万を超えるトピックスもあった。クラブ活動の全国大会（相当）の実績がメディアに取り上げられる実績もあったが、次年度は、受け身ではなく、積極的な情報発信となるよう、新プロジェクトの企画としてInstagramプラットフォームとした新たな情報発信コンテンツを開設予定となっている。

③ キャッチーで時宜にかなった学校案内リーフレットおよびポスターの作成

全教職員から公募し、選ばれた「『ワタシらしく』が鳴り響くー鈴6だから○○できるー」をテーマとし、1年間通して広報活動を行った。テーマと連動したキャッチーな雰囲気のパスターや美術部生徒による自作漫画を掲載したリーフレット作成につなげた。

3. 生徒支援事業

(1) 各学年での工夫した取組による学習習慣の定着とセルフマネジメント力、タイムマネジメント力の育成

Classi、能率手帳、学年独自の資料など、生徒の実情に応じたコンテンツを用いて生徒のセルフマネジメント力向上につなげることができた。

(2) いじめを許さない生徒集団の育成 人権教育体系に基づく各学年の取組推進

教育体系どおりに実施できたが、さらなる改善を目指し、学年の現状に応じたより実効性のある取り組みとしていく。いじめ防止人権フォーラム年3回実施。

(3) 教育相談・カウンセリングの充実

不登校傾向の生徒や生徒間のトラブルに悩んでいる生徒に対する適切かつ迅速な対応と関係機関との情報共有

相談室を利用している生徒においては、学年・カウンセラーとこまめに情報共有できたことで数名の生徒の教室登校につなげることができた。

(4) 性に関する教育、人権教育の体系的推進

体系どおりに実施できた。今後も学年に応じて適切な内容の講演等を実施していく。

(5) BYAD導入を考慮した情報モラル指導の強化(SNSトラブル防止啓発のための講演会等実施)

外部講師による講演会の実施は出来なかったが、学年主導で、恒常的に集会等を通じてSNSト

ラブル防止啓発の指導を行った。

(6) 生徒の主体性を尊重した生徒会活動の活性化

生徒会執行部は、前期課程の防寒具自由化に向けた要望書を学校に提出し、生徒心得の遵守を全校生徒に促すことを通じて自由化につなげるといった生徒主体の取り組みを行うことができた。また、他の部署とも連携をしながら新たな取り組みを取り入れることができた。次年度は各種委員会が主体性をもって活躍ができる場を設けていく予定である。

(7) クラブ活動の支援と生徒の主体的な活動の奨励

ときめきサポート制度や各種コンクール、ボランティア活動等外部行事への参加奨励と社会性の涵養

模擬国連への参加、ロボットコンテスト、防災グッズの開発、ブックトレードといった継続して本校実施しているものが生徒の自主性によって、参加する側から主催する側に立場を変えるなどより発展した形で広がりを見せる企画も出てきた。また、学年を超えたチーム編成で「科学の甲子園」（全国大会）出場の快挙を成した。今後も生徒の主体的な活動をサポートする体制を継続していく。

(8) 資格取得等へのチャレンジの推奨(英語検定や漢字検定などの資格取得を奨励し表彰)

18名が高い資格を取得し表彰された。昨年より数は減少したものの、ITパスポート（国家資格）英検準1級3名が含まれている。

(9) SGSS活動の充実

英字新聞作成、東海・全国のスピーチコンテスト出場を目指す英語表現力の育成等

ネイティブ教員の指導の下、英字新聞の発行を行った。本校の取り組みとして非常に高い評価を得た。また、SGSS生徒が、恒例の高等学校英語教育研究会（高英研）主催のスピーチコンテストで昨年度に引き続き上位入賞を果たした。他、英語模擬国連（JEMUN）にて全国最優秀賞を受賞するなど成果にも表れている。

(10) 生徒防災リーダーチームの発足と育成、生徒の防災意識の向上

令和6年度に引き続き県主催の防災ボランティア事業に2名の生徒が参加した。また、有志の生徒7名がときめきサポート制度を利用し、神戸市の人と防災センターを訪れ、防災グッズ開発に着手するなど防災啓発活動を実施した。

(11) 効率的かつ効果的なスクールバスの運行に向けた成果と課題の整理

効率的かつ効果的なスクールバスの運行を図るため、津・亀山便、亀山便の2路線を統合した。引き続き、課題の整理と効率的な運行について検討していく。

4. 進路支援事業

(1) 進路保障

① 大学入試実績の向上、難関国公立大学20名以上、国公立大学及び有名私立大学50名以上

難関国公立は15名、国公立大学は59名、有名私立（早慶上理・GMARCH・関関同立・医学部医学科）は70名だった。ほぼ2人に1人は国公立大学合格という結果を得た。

② 各学年の模擬試験等のデータ分析を学校全体で共有、協議し、日常的な指導の充実を促進

模試結果を学年主任と共に分析・協議し、職員会議での場での報告・共有することができた。

(2) キャリア教育の充実

① キャリア教育の体系的推進 ベストプラクティスの更新と継承

体験から学ぶ(1年次)、職業を知り、職業観・労働観を養う(2,3年次)、
学部・学科を知る(4年次)、志望学部・学科・大学を明確にする(5年次)

1年次は地元企業調べ、2年次は企業訪問、3年次は海外企業訪問から地元企業の再調べ、
4年次は学部・学科を知り文理選択を行い、5年次での志望校決定につなげることができている。
6年次が大きな成果をあげたので、従来のベストプラクティスに反映していく。

② 医学科進学者のための医系進学者育成プログラムの充実

今年度より鈴6未来ナビ～医系の扉～と名称変更し、6回実施。地元の総合病院やクリニック
の医師の協力を得ることもできた。

③ 小論文・面接指導体制(外部人材の導入など)の充実

医学部予備校の研修会に参加し外部から情報を得るとともに、内部でも経験ある指導者の指導
現場に他教員が参加することでOJTの形での研修を行うことができた。

(3) 外部の優れた人材の活用

大学教員や地域の事業主、卒業生等による講演会の実施

鈴6未来ナビにおいて、大学准教授の講演や、地域の製造業や建設業の事業主の講演と座談会、
またベンチャー企業を立ち上げた卒業生の講演会を実施することができた。

(4) 皇學館大学をはじめとする大学との連携事業の実施

学生による生徒の学習支援やインターン制度の研究及び教員採用の促進に係る連携研究

三重大大学との連携のもと大学訪問を行うことができ、大学からの説明会だけではなく本校卒業
生との座談会も実施できた。また卒業生による受験生向け学習アドバイスの場も数回設定するこ
うができた。

5. 地域連携・地域貢献事業

(1) 県内産業の魅力を知る探究学習

県内企業経営者等のゲストティーチャーを招聘したキャリア教育と連動させた取組の実施

中1で県内産業調べ、中2で全員が企業訪問を実施した。企業訪問した企業のうちの2社の経
営者との座談会を実施することができた。

(2) 地域清掃・通学路清掃活動の実施

通学路や学校周辺の清掃(空き缶やごみ拾い)等生徒の主体的活動、地域住民との協働の推進

地域の自治会の清掃ボランティアに生徒会執行部に留まらず、30名程の生徒が参加し、通学路
周辺の美化に携わった。加えて、放課後における生徒会主体の地域清掃のボランティアにも40名
ほどの生徒が参加した。

(3) 生徒のボランティア活動の活性化と定着化

定期的な地域施設訪問、交流を実施(生徒会・科学部・吹奏楽部等)

地元小学校、地元公民館や学童保育所等への訪問交流を今年度も継続して実施した。(生徒
会・科学部等)鈴鹿さくらまつり等各種イベントのボランティアに希望生徒が参加した。吹奏楽
部が、近隣地域主催の弁天山まつり、亀山市Jazzフェスティバルで演奏し、好評を得た。

6. 教職員の働き方改革

(1) 統合型校務支援システムの導入による業務効率化とシステムのさらなる改善

統合型支援システムの本格導入に伴い、ワークフローによる業務改善と各種資料のペーパレス化も進んだことで、迅速な情報共有につながっている。今後も、働き方改革に伴う制度設計とワークフローの連動、職員の業務と事務手続き間の連動とその効率化を継続して検討していく必要がある。

(2) 教職員業務のスクラップ＆ビルドの意識の醸成と実行

教職員個人の意識の醸成とその実行は一定の成果を得ている。しかし、学年や分掌等組織的に、あるいは制度設計の中でスクラップを推進するには至っていない。次年度以降も、組織的にスクラップを推進できるようにしていく必要がある。

7. 創立40周年(令和8[2026]年)記念事業の準備

(1) 記念講演講師との確実な連携とその他記念事業に向けた準備

記念講演講師として真鍋真先生に正式依頼を行った。また、募金活動の開始に向けて、特定公益増進法人の認可を受けた。

(2) 本館エレベータ設置に向けた寄付の募集

令和8年度中の本館エレベータ設置に向け、事前調査及び本体工事の設計業務を実施した。計画がより具体化したところで、令和8年度に寄付を開始していく。

Ⅲ. 財務の概要

1. 貸借対照表

貸借対照表は、令和 8（2026）年 3 月 31 日現在の財政状況を示しています。

（単位 千円）

科目	本年度末	前年度末	増減	前年比（％）	
資産の部					<有形固定資産> ・資産の増や減価償却に伴う資産価値減少等 98,831千円支出減
有形固定資産	2,293,518	2,392,349	△ 98,831	95.9	
特定資産	1,343,310	1,290,948	52,362	104.1	
その他の固定資産	27,304	31,364	△ 4,060	87.1	
流動資産	1,088,858	1,086,361	2,497	100.2	
資産の部合計	4,752,990	4,801,022	△ 48,032	99.0	<特定資産> ・特定資産の計上や取崩 52,362千円支出増
科目	本年度末	前年度末	増減	前年比（％）	
負債の部					
固定負債	681,140	701,769	△ 20,629	97.1	
流動負債	493,301	414,196	79,105	119.1	
負債の部合計	1,174,441	1,115,965	58,476	105.2	<固定負債> ・長期借入金を流動負債へ振替や退職給与引当金増等 20,629千円支出減
純資産の部					
基本金					
第 1 号基本金	5,568,170	5,494,121	74,049	101.3	
第 4 号基本金	110,000	110,000	0	100.0	
繰越収支差額	△ 2,099,621	△ 1,919,064	△ 180,557	109.4	<流動負債> ・賞与引当金の計上や前受金等 79,105千円支出増
純資産の部合計	3,578,549	3,685,057	△ 106,508	97.1	
負債及び純資産の部合計	4,752,990	4,801,022	△ 48,032	99.0	

※各科目は、四捨五入で表記しています。

2. 事業活動収支計算書

事業活動収支計算書では、当該会計年度の諸活動に対応する事業活動収入・支出の内容および基本金組入後の均衡の状態を明らかにします。収支を計上のものと臨時的なものに、さらに経常的な収支を教育活動と教育活動外に分けて把握することができます。

(単位 千円)

教育活動収支	収入の事業活動の部	科目	予算	決算	差異	予算比 (%)
		学生生徒等納付金	910,715	912,551	△ 1,836	100.2
		手数料	60,175	57,170	3,005	95.0
		寄付金	2,230	1,899	331	85.2
		経常費等補助金	633,820	641,384	△ 7,564	101.2
		付随事業収入	13,857	13,999	△ 142	101.0
		雑収入	70,322	75,620	△ 5,298	107.5
		教育活動収入 計	1,691,119	1,702,623	△ 11,504	100.7
	支出の事業活動の部	科目	予算	決算	差異	予算比 (%)
		人件費	1,252,332	1,249,367	2,965	99.8
		教育研究経費	417,683	400,852	16,831	96.0
		管理経費	83,361	76,244	7,117	91.5
		徴収不能額等	0	0	0	—
		教育活動支出 計	1,753,376	1,726,463	26,913	98.5
教育活動収支差額		△ 62,257	△ 23,840	△ 38,417	—	
教育活動外収支	収入の事業活動の部	科目	予算	決算	差異	予算比 (%)
		受取利息・配当金	3,564	4,891	△ 1,327	137.2
		その他の教育活動外収入	0	0	0	—
		教育活動外収入 計	3,564	4,891	△ 1,327	137.2
	支出の事業活動の部	科目	予算	決算	差異	予算比 (%)
		借入金等利息	5,514	5,512	2	100.0
		その他の教育活動外支出	0	0	0	—
		教育活動外支出 計	5,514	5,512	2	100.0
	教育活動外収支差額		△ 1,950	△ 621	△ 1,329	—
	経常収支差額		△ 64,207	△ 24,461	△ 39,746	—
特別収支	収入の事業活動の部	科目	予算	決算	差異	予算比 (%)
		資産売却差額	0	0	0	—
		その他の特別収入	8,340	6,441	1,899	77.2
		特別収入 計	8,340	6,441	1,899	—
	支出の事業活動の部	資産処分差額	400	295	105	73.8
		その他の特別支出	88,196	88,195	1	100.0
		特別支出 計	88,596	88,490	106	99.9
	特別収支差額		△ 80,256	△ 82,049	1,793	—

<手数料>

・入学受験者数の減や他科目への科目振替等
3,005千円収入減

<経常費等補助金>

・地方公共団体補助金の増等
7,564千円収入増

<雑収入>

・退職財団交付金収入や他科目より科目振替等
5,298千円収入増

<人件費>

・教職員の人件費等
2,965千円支出減

<教育研究経費>

・事業削減・見直等
16,831千円支出減

<管理経費>

・事業削減・見直等
7,117千円支出減

(単位 千円)

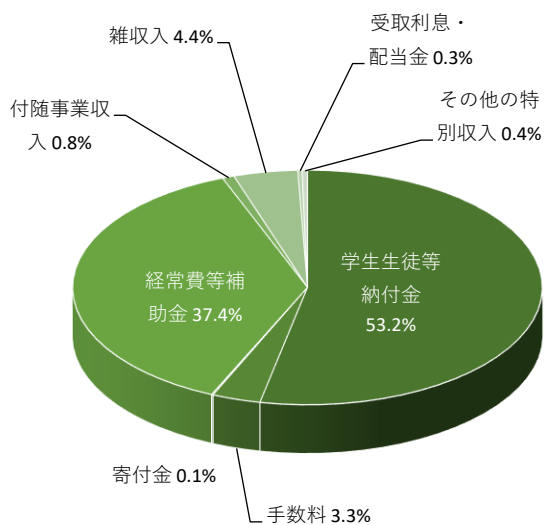
科目	予算	決算	差異	予算比 (%)
〔予備費〕	0		0	—
基本金組入前当年度収支差額	△ 144,463	△ 106,508	△ 37,955	—
基本金組入額合計	△ 115,753	△ 74,049	△ 41,704	—
当年度収支差額	△ 260,216	△ 180,557	△ 79,659	—
前年度繰越収支差額	△ 1,919,063	△ 1,919,064	1	—
基本金取崩額	0	0	0	—
翌年度繰越収支差額	△ 2,179,279	△ 2,099,621	△ 79,658	—

(参考)

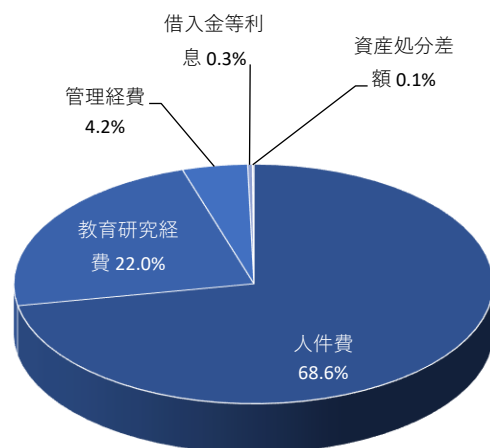
事業活動収入 計	1,703,023	1,713,955	△ 10,932	100.6
事業活動支出 計	1,847,486	1,820,465	27,021	98.5

※各科目は、四捨五入で表記しています。

事業活動収入の構成比



事業活動支出の構成比



3. 資金収支計算書

資金収支計算書は、会計年度の教育・研究その他の活動に対応するすべての収支内容並びに支払資金の収支のてん末を明らかにしたものです。

(単位 千円)

	科目	予算	決算	差異	予算比 (%)	
収入の部	学生生徒等納付金収入	910,715	912,551	△ 1,836	100.2	
	手数料収入	60,175	57,170	3,005	95.0	
	寄付金収入	2,230	1,520	710	68.2	
	補助金収入	642,160	647,181	△ 5,021	100.8	
	資産売却収入	0	0	0	—	
	付随事業・収益事業収入	13,857	13,999	△ 142	101.0	
	受取利息・配当金収入	3,564	4,891	△ 1,327	137.2	
	雑収入	70,322	75,620	△ 5,298	107.5	
	借入金等収入	0	0	0	—	
	前受金収入	177,720	170,890	6,830	96.2	<前受金収入> ・ 入学金等減 6,830千円収入減
	その他の収入	41,831	42,095	△ 264	100.6	
	資金収入調整勘定	△ 249,155	△ 263,159	14,004	105.6	
	前年度繰越支払資金	1,061,263	1,061,264	△ 1	100.0	<資金収入調整勘定> ・ 未収入金の減 14,004千円収入減
	収入の部合計	2,734,682	2,724,022	10,660	99.6	
支出の部	科目	予算	決算	差異	予算比 (%)	
	人件費支出	1,183,554	1,180,077	3,477	99.7	
	教育研究経費支出	273,830	256,569	17,261	93.7	
	管理経費支出	80,666	73,559	7,107	91.2	
	借入金等利息支出	5,514	5,511	3	99.9	
	借入金等返済支出	84,859	84,858	1	100.0	
	施設関係支出	34,376	33,401	975	97.2	
	設備関係支出	9,278	9,890	△ 612	106.6	
	資産運用支出	69,745	70,255	△ 510	100.7	
	その他の支出	70,278	34,980	35,298	49.8	<その他の支出> ・ 預り金の減や保証金などの増 35,298千円支減
	小計	1,812,100	1,749,100	63,000	96.5	
	予備費	0	0	0	—	
	資金支出調整勘定	△ 18,716	△ 30,976	12,260	165.5	<資金支出調整勘定> ・ 期末未払金等の減 12,260千円支出減
	翌年度繰越支払資金	941,298	1,005,896	△ 64,598	106.9	
	支出の部合計	2,734,682	2,724,020	10,662	99.6	

※各科目は、四捨五入で表記しています。

4. 有価証券

① 総括表 (単位 円)

	当年度 (令和8 (2026) 年3月31日)		
	貸借対照表計上額	時 価	差 額
時価が貸借対照表計上額を超えるもの	288,295,154	387,307,668	99,012,514
（うち満期保証目的の債券）	(0)	(0)	(0)
時価が貸借対照表計上額を超えないもの	249,786,500	237,230,000	△ 12,556,500
（うち満期保証目的の債券）	(0)	(0)	(0)
合 計	538,081,654	624,537,668	86,456,014
（うち満期保証目的の債券）	(0)	(0)	(0)
時価のない有価証券	1		
有価証券合計	538,081,655		

② 明細表 (単位 円)

種類	当年度 (令和8 (2026) 年3月31日)		
	貸借対照表計上額	時 価	差 額
債券	249,786,500	237,230,000	△ 12,556,500
株式	1,730,000	2,875,300	1,145,300
投資信託	286,565,154	384,432,368	97,867,214
合 計	538,081,654	624,537,668	86,456,014
時価のない有価証券	1		
有価証券合計	538,081,655		

5. 借入金明細書

令和7 (2025) 年4月1日から令和8 (2026) 年3月31日まで

(単位 円)

借入先	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	返済期限	摘要
長期借入金	公的金融機関	0	0	0		
	市中金融機関	569,342,880	0 (※)	84,858,240	484,484,640	令和19年 1月5日 使途：図書館、鈴鹿高校校舎整備資金 担保：鈴鹿高校・中等教育学校の校地・校舎
	その他	0	0	0		
	計	569,342,880	0 (※)	84,858,240	484,484,640	
短期借入金	公的金融機関	0	0	0		
	市中金融機関	0	0	0		
	その他	0	0	0		
	計	0	0	0		
	返済期限が1年以内の長期借入金	84,858,240	(※) 84,858,240	84,858,240		
	計	84,858,240	(※) 84,858,240	84,858,240		
合計		654,201,120 (※)	84,858,240 (※)	84,858,240 (※)	569,342,880	

(※) 長期借入金から短期借入金への振替額である。

6. 財務比率

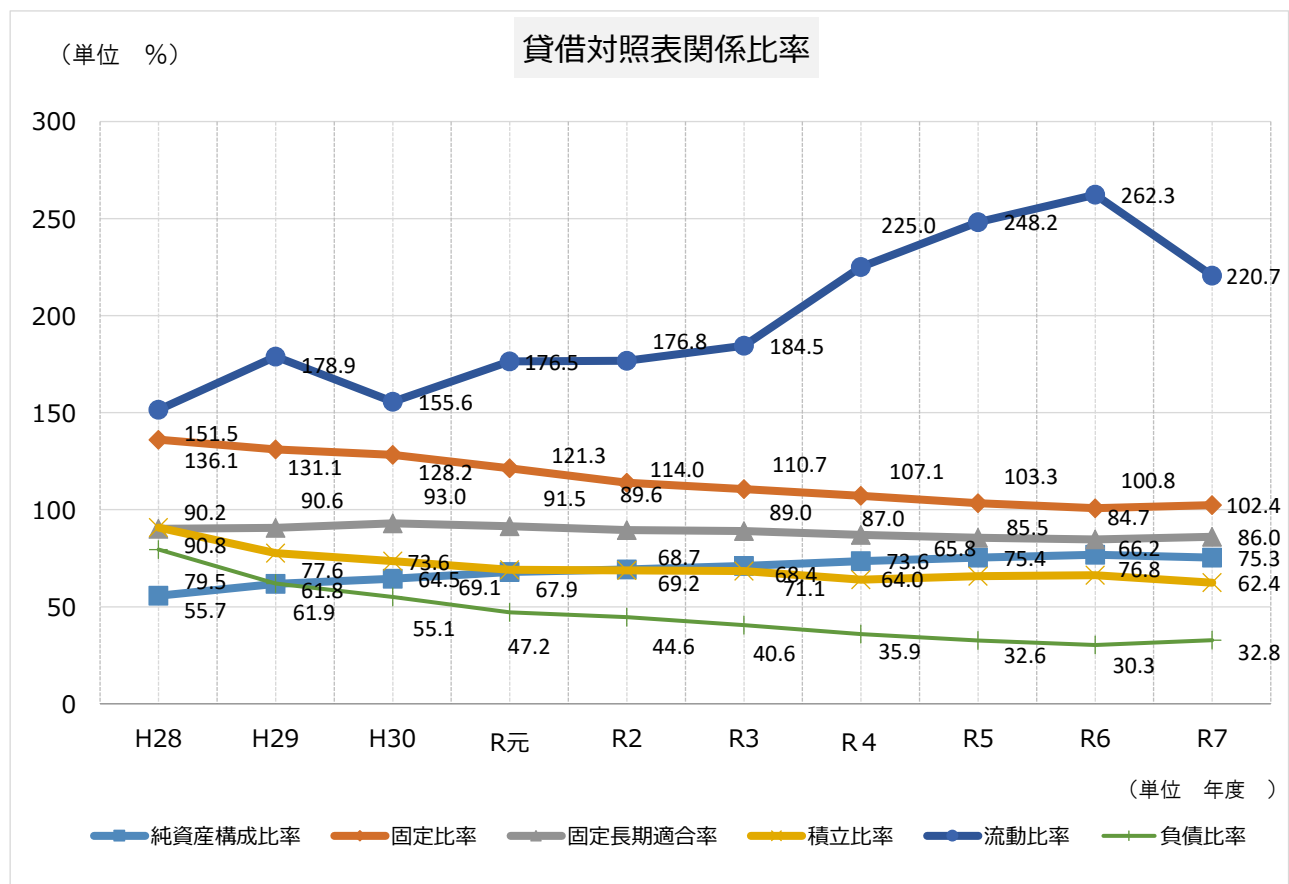
貸借対照表関係比率

(単位 %)

分類	比率名	算式	本学園 決算	全国平均	評価 指標
自己資金は充実されているか	純資産構成比率	純資産 ÷ (負債 + 純資産)	75.3	85.8	↑
長期資金で固定資産は賄われているか	固定比率	固定資産 ÷ 純資産	102.4	98.3	↓
	固定長期適合率	固定資産 ÷ (純資産 + 固定負債)	86.0	89.9	↓
負債に備える資産が蓄積されているか	積立率	運用資産 ÷ 要積立額	62.4	60.3	↑
	流動比率	流動資産 ÷ 流動負債	220.7	252.6	↑
負債の割合はどうか	負債比率	総負債 ÷ 純資産	32.8	16.5	↓

評価 ↑ 高い値が良い 全国平均：『令和6年度版「今日の私学財政」高等学校・中学校・小学校編』（日本私立学校振興・共済事業団）

指標 ↓ 低い値が良い



7. 財務比率

事業活動収支計算書関係比率

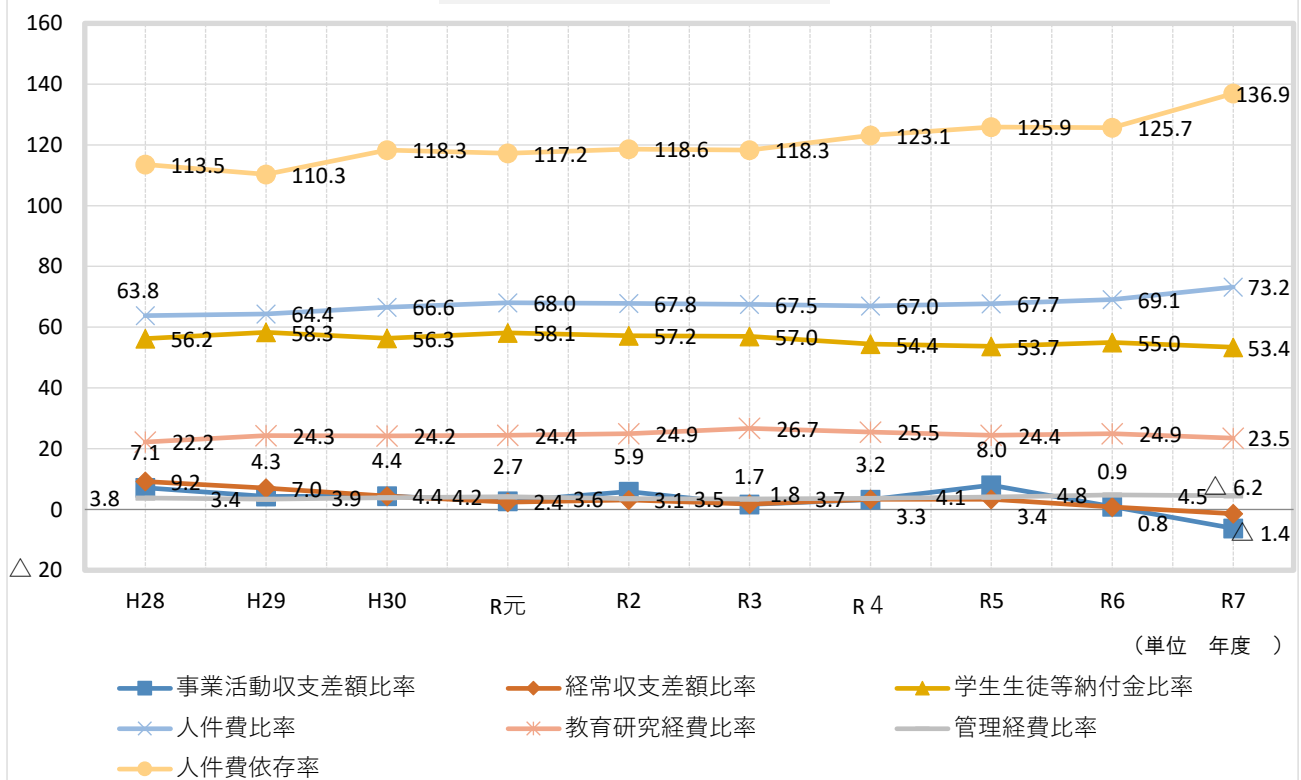
(単位 %)

分類	比率名	算式	本学園		全国平均	評価指標
			第3回補正	決算		
経営状況はどうか	事業活動収支差額比率	基本金組入前当年度収支差額÷事業活動収入	△ 8.5	△ 6.2	3.3	↑
収入構成はどう なっているか	学生生徒等納付金比率	学生生徒等納付金÷経常収入	-	53.4	50.3	～
	寄付金比率	寄付金÷事業活動収入	-	0.1	4.4	↑
	補助金比率	補助金÷事業活動収入	-	37.8	37.3	↑
支出構成は適切で あるか	人件費比率	人件費÷経常収入	73.9	73.2	62.9	↓
	教育研究経費比率	教育研究経費÷経常収入	24.6	23.5	29.6	↑
	管理経費比率	管理経費÷経常収入	4.9	4.5	7.3	↓
収入と支出のバラ ンスはとれている か	人件費依存率	人件費÷学生生徒等納付金	137.5	136.9	125.0	↓
	経常収支差額比率	(経常収入-経常支出)÷経常収入	-	△ 1.4	△ 0.2	↑
	教育活動収支差額比率	教育活動収支差額÷教育活動収入計	-	△ 1.4	△ 1.2	↑

評価 指標 ↑ 高い値が良い 全国平均：『令和6年度版「今日の私学財政」高等学校・中学校・小学校編』（日本私立学校振興・共済事業団）
↓ 低い値が良い

(単位 %)

事業活動収支計算書関係比率



(単位 年度)



学校法人 鈴鹿享栄学園